



題字は松井岳洋筆

この頃思ふこと

青少年部長 加藤 岳美



昨年は碩心会創立80周年大会も、会長始め会員皆様のご努力で立派に成功する事ができました。

私も教務部、葉

山地区長、青少年部長と歴任しましたが、何れの部門も一生懸命計画し案を練り実行すればその成果は現れるものです。私も平成26年に青少年部長として、副部長と共に毎月学校への「吟道」の配布、南郷中学校の生徒と詩吟での体験学習、年一回の神奈川岳風連合の青少年大会等、微力ながら普及活動に努力しています。なかなか成果が出ず、努力不足を感じていますが、幸い碩心会の青少年の会員数も各支部の指導者、会員のご尽力により少しずつ増加している事に感謝する次第です。子どもたちを一人入会させる事が、どれ程大変か身をもって痛感している

ところですが、以前にも「碩心」に書かせて頂きましたが、まず身内からの呼びかけに心する事が早道かと思う次第です。

神奈川岳風連合会の組織の中で、他会の青少年部の担当者との交流会があり、各々の会の活動状況の情報を聞きとても参考になり、勉強になり有難く思います。また、青少年大会では子どもたちの若さ漲る吟声、応援する会場の皆さんの声援に元気をもらっています。

私も先日喜寿の祝いの同窓会の通知をもらい、自分の年齢を改めて感じました。現在、支部長も兼任しておりますが、無理をせず健康に留意し、一日一日を無事に過ごす事が出来るよう努力して参ります。

平成30年の年明けの気持ちを新たに、1月2日の葉山地区の行事である森戸神社の奉納吟、また、5日には葉山町新春の集いで、葉山空手協会の子どもたちとのコラボで、大きな声で元気に参加することができました。

自宅の窓から清々しい雄大な富士の姿を眺めながら、毎日健康で吟道活動が出来ればと思うこの頃です。

No. 443  
平成30年5月

発行

(公社) 日本詩吟学院 認可

碩心会

発行者 上村岳章

編集者 伊藤岳光

神奈川県三浦郡葉山町堀内 1285

Tel/Fax.046-875-3397

URL http://sekishin.holy.jp

行事予定

碩心会 総会

日時 5月22日(火) 開会15時

神静地区師範吟詠大会

日時 5月25日(金) 開会10時

第27回神奈川岳風連合会青少年吟詠大会

日時 6月10日(日) 開会10時

碩心会温習会

日時 6月23日(土) 開会10時15分

岳風忌

日時 7月1日(日) 場所 諏訪地蔵寺

第6回全国俳諧歌吟詠大会

日時 7月2日(月)

第64回夏季吟道大学講座

日時 7月21日(土) 開会10時

全国青年吟道大会

日時 7月22日(日) 開会9時30分

碩心会夏季吟道講座

日時 8月18日(土)

秋季審査会

日時 9月15日(土)

第129回全国吟道大会

日時 9月23日(日)

神静地区吟道講座

日時 9月30日(日)

場所 名古屋国際会議場  
三島市民文化会館

昇伝段位認許

(平成30年4月1日付)

少年(2名)

187 重田すず(少7級) 188 永井翔太(少3級)

初段(5名)

204 石川昌子 205 吉見恵里

二段(10名)

185 吉田朋之進 186 澤木翔太  
192 井上君枝 193 大門鋼作 194 村上日出子  
195 宇治田光代 197 林 初代 198 佐野司郎

初伝(11名)

176 守屋允泉 177 徳永邦泉  
178 徳永幸泉 179 池田和泉 180 吉田昌泉  
181 鍋田敏泉 183 福原時泉 184 桑原昭泉  
189 鈴木崇泉 190 安西信泉 191 野津英泉

三段(6名)

168 北村淑泉 169 日比廣泉  
171 田中友泉 172 八木澤臣泉 173 小峰昭泉  
174 小峰桜泉

四段(5名)

159 増田悦泉 163 吉村健泉  
165 山藤寛泉 166 平泉廣泉 167 藏重千泉

中伝(3名)

148 作山光山 150 小林文山

五段(5名)

135 山川蒼山 136 佐々木康山

六段(5名)

129 本多菊山 130 岩田文山 134 寺山紀山  
131 山田眞山 132 伊藤茜山 133 結城翔山 139 結城翔山

奥伝(6名)

123 加藤典風 125 亀井水風 126 吉田桜風  
127 伊藤洋風 121 吉田真風 122 常盤仙風

七段(6名)

113 加藤茗風 115 中山辰風 116 村上遙風  
117 古敷谷江風 111 永田静風 112 村田一風

八段(6名)

102 今原幸風 104 畠中潤風 105 矢嶋敏風  
106 斉藤悠風 15 山崎勝風 101 鈴木康風

春季審査会

平成30年3月24日(土)  
葉山町福祉文化会館

桜の蕾もほころび始めた穏やかな春の一日、定例となった審査会は緊張の中開始された。

今回の春季審査会より許證申請基準「履修期」が早くなった為、受審者が多数になり、大会議室と第1、第2集会室の2カ所に分かれ開催された。

受審された方々の感想(4名)

◇初段 真名瀬支部 吉見恵里

初めての審査会で少し緊張しましたが、「練習してきた以上のことはできない」と開き直り全てを出し切りしました。審査会はモチベーションを維持できるので、とても有意義だと思えます。上段位の方々の吟を聞いて自分もできるよくなるのだろうか?と思いましたが、先生の教えを自分のものにして、気持ち良く吟じら

れるようになりたいです。

◇三段 国際村支部 小峰桜泉

先輩方の詩吟を聞き、もっと聞きたいと思い軽い気持ちで入会しました。もともと音痴で人前で声を出す事のなかった私ですので、節回しを覚えるのに苦労しました。先生方の丁寧なご指導と、仲間の方々と和気あいあいと楽しく学ぶことができ2年程過ぎました。お蔭様で三段を受審する事ができ、これからも楽しみながら学んで行きたいと思っております。

◇奥伝 紫陽花支部 吉田桜風

奥伝は新たに書き取りの審査が加わり、練習のため書いて覚えました。とても新鮮でした。書く事で吟を映像として目に焼き付け、本番にはその映像を思い出して書く事ができました。文字を書く機会の少ない現代、とても新鮮で、詩吟は心も体も活性化してくれます。諸先輩方のお元気なのは詩吟にあったのですね!一人でも多くの方々に詩吟を広めていきたいと思えます。

◇皆伝 東伏見支部 田邊無岳

春本番の日、未聞の80名以上の受審者に交じり、皆伝の受審者3名は後期高齢者、3年ぶりの審査に挑戦した。長時間関わった先生方には感謝あるのみ。私的には入会時目標を皆伝に定め、今回は数カ月に亘り、毎晩灰色の脳細胞をチョコで活性化し、ベッドで太り気味の腹の上に全文を指でなぞり暗記し、健診で血糖値の急上昇を指摘されたが、心地良い脱力感を味わっている。



## 碩心会皆伝会 吟の集い

平成30年2月24日(土)  
葉山港湾管理事務所3F

初めて参加して

滝の坂支部 坂上城岳



頂き、今回皆伝以上の高段者の集いに出吟致しました。二番手で些か緊張の面持ちで「新年祝いの詩」を詠じさせて頂きました。今年は16日が旧暦の元旦だったので、時を選びまた、新たな出発の意義を止めました。さすが先輩方の吟は皆、心の籠った立派なもので、私のこれからの精進の糧になるものでした。

憶おもえば14年の入会以来丁度15年、上村先生始め、多くの先輩諸賢のご指導により、今日を迎えたことは感慨一入の想いで御座います。19年の全国吟道沖繩大会にも参加しましたが、実は沖繩には転勤で3年程任んだことがあります。その近くに首里城ゆかりの城岳公園があったのです。ここは葛飾北斎も描いている「琉球八景」の一場面ですが、これが私の雅号の由来です。

詩吟との出会い

酔吟支部 今井重岳



私の詩吟入門のきっかけは、特に詩吟に興味があったわけでも無く、練習後お酒を楽しみむらしいとの噂に誘われて蒲田の行谷教場の

門を叩いたという極めて不純な動機からでした。

しかし苦勞しながら昇段試験を受け続けるうちに、吟の奥深さを実感させられるようになり、今は入会当時とは全く違った気構えで、往復3時間以上をかけて教場に通い、詩吟を続けて来られたことに多くの皆さんに感謝しています。

先日、初めての皆伝会に参加させて頂き、さすがに皆さんの味のある吟に深く感銘を受けました。私も皆伝会への入会を認められた以上、一層練習に励み、おおいに詩吟を楽しみたいと決意いたしました次第です。

## 継続は力なり

酔吟支部 大塚翔岳



ただ、ひたすら続けてきた結果でしょうか。私にとつては、漢詩、和歌、俳句などは別世界のものですが、ある時、先輩に誘われて居酒屋の2階に上がっていったところ、そこが、詩吟教室だったのです。

そして、10数年、声を出すことは好きでも、詩の内容を理解し、情感を表現し吟ずることは、大変難しいことで「声は出ているが、表情がないよ」と言われ、その難しさを痛感し、今日に至っております。

しかし、稽古日に皆さんとお会いすることを

楽しみに、継続してきた結果として、皆伝を頂けたことは嬉しい限りです。今後とも日々精進して参ります。

## 第1回全国特別維持会員吟道大会



平成30年3月11日(日) 日経ホールに於いて標記大会が開催された。会場は全国各地から参集した特別維持会員の方、その他会員、一般入場者で満席。この大会は全国認可団体代表吟道大会として実施されていたが今年、新たに出吟者も特別維持会員に限定され開催された。

この大会はマイク無し、伴奏なしでの真剣勝負ゆえに会場の我々も当初は吟者の気持ちになり緊張気味。大山岳荘理事長の明治天皇御製吟詠「人」で厳肅な雰囲気の中始まった。「独吟」106題、「連吟」15題、「合吟」8題。碩心会を代表して高橋岳之副会長が「寒梅」(新島襄)を見事に感情を込めて吟じあげた。

出吟者は高齢の方々が多く、その真摯な姿に感動。この大会が今後、意義ある素晴らしい大会となっていくことを確信した。伊藤岳光

相州岳風連合吟道講座に参加して

8回目となるこの吟道講座は、平成30年3月4日横須賀市生涯学習センターで開催された。市民ホールは122名の参加者で満席。碩心会からも43名が参加した。「日頃の鬱憤を晴らし、声を存分に出してスカッとして5時に帰って貰いたい」との挨拶があり、講座が始まった。

第一講 俳諧歌「子を思ふ」一茶  
講師 神奈川青風会会長 村島岳登先生

第二講 漢詩「吉野に遊ぶ」頼 杏平  
「己亥の歳」曹松  
講師 神奈川誠吟会顧問 白井岳秀先生

第三講 俳句「菜の花や」蕪村  
和歌「身はたとひ」吉田松陰  
講師 碩心会顧問 加藤岳洵先生

第四講 漢詩「前兵児の謡」頼 山陽  
講師 翔風吟道会相談役 赤羽岳頌先生  
それぞれの分野の吟じ方の違いやコツを、先生方ご自身の工夫や実践を交えて、ご指導いただいた。

\*音位、音階を正しく知る。(上げるところは上げ、下げるところは下げる) その後心情や気持ちを含めて自分の吟にしていくな。  
\*吟ずるとき自分の注意点を保持して練習する。

\*リズム感がないと声は張れない。  
\*基本は大事にしなくてはならないが、しかしそのままでは面白くない。

\*詩吟は楽しむことが大切。リズムが大切。詩

文を読みきれば次の言葉に繋がってくる。\*余韻は母音に返し、しつかり止める。先生方の講義を聞き、皆と吟じてみて、また注意を聞いて吟じてみる。ふと気がつく、いつの間にか夢中で声を出している自分がいた。詩文の作者、背景、解釈等も詳しく語られ、先生方の詩吟に立ち向かう姿勢に学ぶところ大であった。密度の濃い一日の高揚感と共に家路についた。

之を楽しむに如かず

相洋支部 神山凱風



この度、お陰様で奥伝を拝受致しました。平成24年10月に入会してから、5年目です。実は「学研」という出版社に勤務していた30年程前に、日本吟道学院の横須賀支部の先生から指導を受け、平成5年に七段位を授与されました。定年の1年前に体を壊し、腰部脊柱管狭窄症で2回手術を受け、今は回復して二本杖をつき元気

会員のうごき

- \*入会 (3月1日付)  
213 久世健一郎 (真澄) 逗子市久木  
紹介者 村上遙風  
214 片山寛子 (紫陽花) 葉山町上山口  
紹介者 遠藤千泉
- \*退会者  
67 大江晴美 (幸和) 135 馬場奎子 (篁風)  
143 上本里子 (幸和) 164 藤井チトセ (紫陽花)  
202 田代斐子 (篁風) 203 坂本慎二 (やよい)

編集後記

「人生100年時代」と言われる今、健康長寿を実現のために「詩吟」は最高の趣味だと思えます。腹式呼吸で朗詠する為、内蔵の働きを良くし体調を整え、背筋も鍛えられ老化防止にもなります。幅広い年代の愛好者と交友することで社会との繋りも得られ、日々楽しく豊かに過ごせます。詩吟を勉強することにより得られる知識や言葉は何物にも代えがたい魅力があります。 広報部

30年5月現在	会員数
逗子地区	106名
葉山地区	81名
合計	187名

に生活しています。詩吟もずっとやめていたのですが、葉桜団地の掲示板を見て、碩心会に入会しました。 実際には中伝位から再開したのですが、腰がふらふらしている所為か、お腹から声を出す腹式呼吸がうまくできません。寝ながら発声練習をしているうちに、音程が水二本から五々六本まで出せるようになりました。まったく頼りない「ふらふら吟」ですが、80歳の皆伝位を目指して頑張っていきたいと思えます。 「之を知る者は之を学ぶものに如かず、之を学ぶ者は之を楽しむ者に如かず」という言葉が好きです。これは詩吟についても言えることで、只楽(しかく)をしていては「楽しみ」を得ることはできません。学び、努力して初めて得られる「楽しみ」なのでしょう。それでは、また、何処かで。